

以下の和訳は、Globeecho オンライン記事の、日本 AALA 委員会の AALA ニュース編集部による和訳である。なお訳出にあたって、Google の無料翻訳機能を活用し、その出力結果を一部修正したが、速報のための仮訳として理解いただきたい。

Jun 13, 2023
Globeecho

BRICS expansion and a message to the West
サウジの BRICS 加入の動きと西側へのメッセージ

<https://globeecho.com/politics/the-brics-expansion-is-a-frightening-message-to-the-western-world/>

By DNYANESH KAMAT

リード

サウジアラビアが BRICS に参加すれば、地政学的な流れは一層明瞭なものとなる。それは同時に、米国の影響力の低下を思い知らせるものとなる。



写真は NDB_新開発銀行本店（上海）のロゴ。旗は左から Brazil、Russia、India、China、Southafrica、そしてサウジ

以下本文

サウジアラビアは、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカで構成される BRICS の新開発銀行（以下 NDB）への加盟に向けて協議している。リ

ヤドが加盟すれば、それは欧米が独占している国際金融機関に挑戦することになる。このことからサウジの加盟は期待されている。

リヤドへの加盟は、特にグローバル・サウスにおいて新植民地主義的構造の象徴とみなされている G7 などの富裕国クラブに対抗するものであることを示している。

サウジアラビアの資金力は、多国間資金調達においてより重要な役割を果たすことになる。これは、ワシントンに支配されない代替的な金融構造を作ろうというグループの計画と一致する。

国際通貨基金（IMF）と世界銀行は、その意思決定において構造的にグローバル・サウスの意見を反映せず、欧米諸国の政策目標と密接に連携している。このことはしばしば批評家から指摘されている。

その意味で、サウジアラビアが BRICS に加盟することは、一つのメッセージとなる。すなわち、BRICS はグローバル・ガバナンスと資金調達における代替構造の構築を模索する可能性があるということだ。

今年の G7 では、インド、ブラジル、アフリカ連合、ベトナム、インドネシア、韓国がオブザーバーとして招聘されたことから、欧米諸国はこのことに注目しているようだ。

先進国のダブル・スタンダードに反感

サウジアラビアは、現在の BRICS メンバーと同様に、ロシア・ウクライナ紛争について中立の立場をとっている。その背景には、BRICS 諸国が国境と主権の神聖さに関する第二次世界大戦後の国際的合意にほぼ同調している一方で、戦後体制の原理に対する欧米の矛盾した態度に不満を共有していることがある。

20 年前、ブッシュ大統領はイラク侵攻を決行した。そのとき、数十万人のイラク人が何の理由もなく殺害された。それは、欧米の偽善を痛感させるものである。

BRICS 加盟国が戦後の国際原則の解釈で欧米諸国と大きく異なるのところがある。それは**内政不干渉の原則**である。彼らは皆、大きく異なる体制の下で活動し、互いの内政にコメントすることはない。政治的には、それが BRICS をまとめる接着剤となっている。

サウジアラビアが BRICS に参加すれば、西側支配からの離脱という地政学的な流れはより確固なものになる。それは同時に、ワシントンの影響力の激減

を思い知らされる出来事となるだろう。

サウジ政府幹部の発言

昨年、バイデン大統領がサウジアラビアを訪れ、世界のエネルギー価格の高騰を抑えるために石油の増産を説得した。それはロシア経済制裁の効果を上げるためでもある。

しかしサウジは増産の要請とは逆の行動（減産）を取った。その決定は、間違いなくロシアのプーチン大統領にとって有利なものだった。リヤドは経済的な根拠に基づいて減産を正当化したが、誰もその言葉を信じはしなかった。それはロシアや中国に対するワシントンの攻撃的姿勢に納得せず、そこから距離を置こうとするものと受け止められた。

今年の世界経済フォーラムで、サウジアラビアのモハメド・アルジャダーン財務相は次のように述べた。

サウジアラビアの海外への資金援助は、今後、紐付きで行うことになるだろう。すなわち受益国の経済改革と連動させるという条件だ。サウジアラビアの BRICS 加盟は、BRICS が世界の金融環境の再構築を目指す流れの中で、サウジアラビアに席を提供することになる。

サウジは国内的には、経済の多様化を計画している。すなわち課税基盤を拡大し、過剰に寛大な公共部門を縮小することである。そうした時期に、BRICS に加盟することは、責任ある慎重な外部資金調達の新しいアプローチを示す場となる。

中国は、サウジの BRICS 招致を後押しする役割を果たした。サウジは 3 月、中国を中心とする上海協力機構（SCO）に対話相手（dialogue partner）として参加した。そして人民元での石油関連取引について積極的に協議した。サウジアラビアの加盟は、他の BRICS 諸国の反対を招くことはない。アメリカは世界支配のためにドル金融システムを繰り返し武器化してきた。それに対する保険として、脱ドル構想に反対する国はないだろう。

（名文句なので、原文を示します。None would be averse to de-dollarization initiatives as a form of insurance against repeated American weaponization of the global dollar-dominated financial system.）

3 月に NDB の総裁に就任したディルマ・ルセフ（前ブラジル大統領）は、NDB の今後の戦略として、現地通貨建てでの資金調達を強調した。それは国内市場を育成し、為替変動から借り手を保護する戦略に沿ったものである。

BRICSS 拡大へのハードル

BRICS への加盟に関心を示す国が増えている。それに伴い、加盟国には様々な課題が発生する。

第一に、NDB が欧米の対ロシア制裁に対抗できるのは、少なくとも 10 年後である。

NDB は投資家の懸念を払拭するため、2022 年 3 月にロシアへの金融関与を停止した。また同国での新規プロジェクトへの融資も停止している。

第二に、BRICS の間には、中国とインドをはじめとする領土的な対立があり、それがグループの足かせになっていく可能性がある。

第三に、インドを除く他の BRICS 諸国には、2009 年のグループ発足時のようなバラ色の経済見通しが無いことである。

第四に、NDB は投資額という点ではそれほど多くはない。2015 年以降、NDB は約 330 億米ドルの約 96 のプロジェクトに資金を提供したが、これに対して世界銀行は 2022 年 6 月までの 1 年間に約 670 億米ドルの資金を提供した。

第五に、加盟国は互いにはるかな距離で隔てられており、政治体制も異なり、貿易面でも完全に補完し合っておらず、地政学的な姿勢も完全に一致していない。

最後に、経済規模という問題でも、加盟国間で基準の相違がある。

これらの問題を解決しない限り、BRICS は、拡大するにつれて自らの矛盾の重さに耐えかねて崩壊するかもしれない。

しかし世界は、こうした動きを興味深く、あるいは恐る恐る見守っている。というのも、BRICS の拡大の可能性は、欧米諸国にとっては次のようなメッセージとして解釈されるからだ。

欧米諸国が、国際的な地政学的秩序やグローバルな金融システムを提唱しながら、システムの原則と解釈を独占し続けることはできない。

DNYANESH KAMAT

Dnyanesh Kamat is a political analyst who focuses on the Middle East and South Asia.

訳 編集部 (SS)